

協議第 5 号 黒部市地域公共交通網形成計画の改訂について

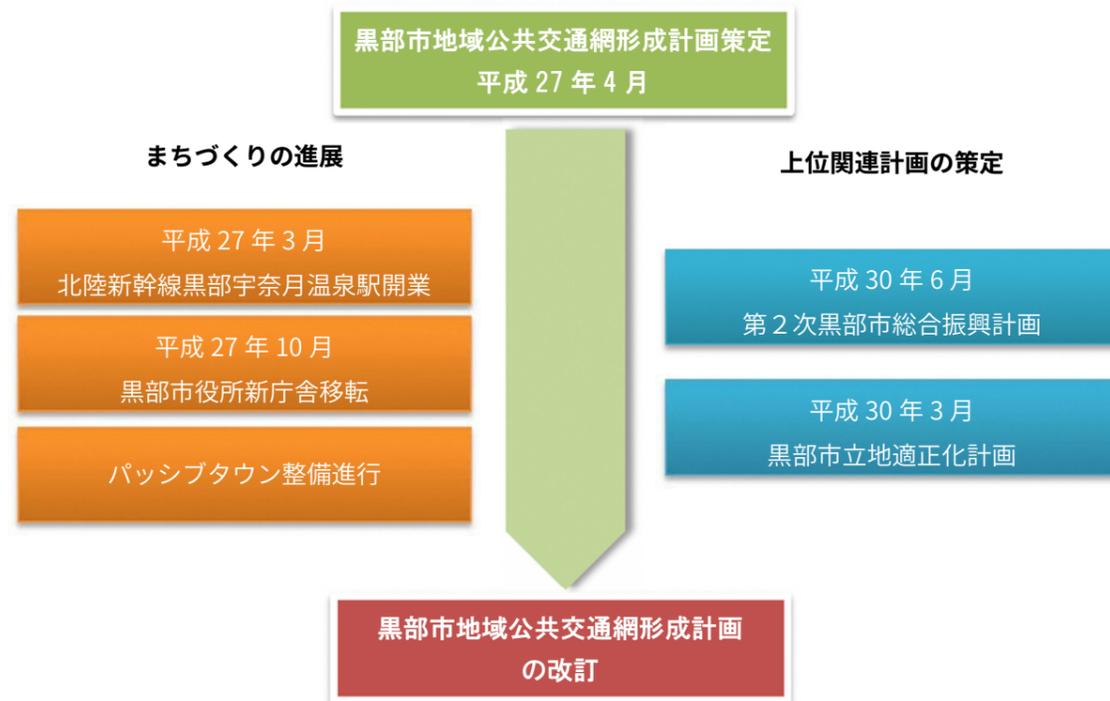
資料 2

1. 黒部市地域公共交通網形成計画の改訂について

地域公共交通網形成計画の見直しの趣旨

- ・「黒部市地域公共交通網形成計画」は、平成 26 年度の調査を基に平成 27 年 4 月に策定され、計画検討時以降に、北陸新幹線黒部宇奈月温泉駅の開業、市庁舎の移転整備、市民病院の増改築、パッシブタウンの整備の進行など、交通体系の変更やまちづくりの進展により、黒部市内の公共交通を取り巻く情勢が変化してきている。
- ・また、第 2 次黒部市総合振興計画や黒部市立地適正化計画といった形成計画の上位関連計画についても本計画策定以降に、新たに策定されており、それらの計画との整合性を図ることが必要となってきた。
- ・これらのことを踏まえ、地域公共交通網形成計画の改訂を行うこととする。

図 1 地域公共交通網形成計画の見直し背景



地域公共交通網形成計画の基本的事項

従来の計画についての時点修正が主な趣旨であるため、計画期間及び対象区域は、従来のままとする。

計画期間：新幹線開業やまちづくりの進展と連動した計画とするため、平成 27 年度から平成 31 年度の 5 年間
対象区域：黒部市全域

計画構成について

改訂版の計画の構成についても見直しの趣旨を踏まえ、以下のような従来の計画を基本として構成する。

第 1 章 計画策定の背景と目的

- 1-1 計画策定の背景
- 1-2 上位計画、関連計画
- 1-3 形成計画策定の目的

第 2 章 黒部市と市内地域公共交通の現状

- 2-1 黒部市の地勢
- 2-2 黒部市の人口
- 2-3 黒部市の公共交通
- 2-4 北陸新幹線と富山地方鉄道新駅の開業
- 2-5 公共交通空白地域の存在
- 2-6 まちづくりの現状
- 2-7 市民の主な交通手段と目的地

第 3 章 市民アンケート調査結果

- 3-1 住民へのアンケート調査結果概要
- 3-2 アンケート調査結果

第 4 章 地域公共交通網形成計画

- 4-1 市内公共交通における課題整理
- 4-2 計画期間と対象区域
- 4-3 計画の基本方針と目指すべき都市構造
- 4-4 計画の目標
- 4-5 実施する事業の体系
- 4-6 実施する事業
- 4-7 重点施策
- 4-8 事業の進捗管理

今回提示の部分

2. 黒部市地域公共交通網形成計画の主要改訂部分の新旧対照

【既存計画】

第 4 章 地域公共交通網形成計画

4-1 市内公共交通における課題整理

現状の整理、市民アンケート等から、以下の通り課題を整理するとともに、特に平成 27 年度に取り組むべき課題を挙げる。

① 北陸新幹線の開業への対応

- ・新幹線アクセス路線の整備を始めとする新幹線駅からの利便性確保が必要
- ・市民生活だけでなく、ビジネス、観光へ波及する公共交通による利便性確保が必要
- ・開業効果を持続させる多様な方策の検討が必要

② 新庁舎建設や市街地の開発など、まちづくりの進展と連動した交通網の形成

- ・新庁舎建設や市民病院の増改築、区画整理事業、住宅取得支援など、市街地開発の進展と都市機能の集積に応じた公共交通網の整備が必要
- ・市内における、自然環境と共生する環境配慮型まちづくりなどとの連動が必要

③ 将来的な地域公共交通網の持続可能性確保

- ・路線の再編による効率的な運行方法の検討が必要
- ・人材の確保や設備更新、路線収支の安定化など、運行事業の持続可能性確保が必要
- ・公共交通を支える意志があることを市民が示している一方、満足のいく交通網を提供できていないことから、公共交通空白地域の解消や路線再編による利便性向上を通じて、より使いやすく持続可能性の高い公共交通網の形成が必要

④ 人口減少社会に対応した利用促進の取組み

- ・公共交通に関する積極的な情報提供やモビリティマネジメントなどの利用促進の取組が必要
- ・デマンド交通やコミュニティタクシー等において、利用者が固定化しつつある状況の改善が必要
- ・黒部駅、電鉄黒部駅の利用減少、利用の伸びが鈍化する路線があることから、鉄道も含めた市街地での公共交通利用促進が必要

⑤ 新たな技術、交通システムの検討

- ・路線運行のみで全ての公共交通ニーズに応えるのは困難である一方、デマンド運行等の柔軟な交通システムにおいても、利用方法での不満があることから、新たな交通システムの検討が必要
- ・環境やバリアフリーに配慮した先進的な車両の導入、IT を活用した新技術の導入検討が必要

⑥ 公共交通を利用していない、利用したことがない市民への対応

- ・アンケート結果からは、多くの市民が公共交通を利用していない、利用したことが無い実情が浮かび上がることから、一度体験するためのきっかけづくりや乗車体験、市民が無理なく出来る範囲で公共交通を使うための取組、意向調査が必要

平成 27 年度の大きな課題…

**まちづくりと一体となった公共交通網の形成
公共交通にまずは一度乗って頂く、体験し身近に感じる機会づくり**

【計画改訂版】

※赤字表示部分が改訂部分を示す。

第 4 章 地域公共交通網形成計画

4-1 市内公共交通における課題整理

現状の整理、市民アンケート等から、以下の通り課題を整理する。

中心部の整備におけるまちづくりの進展、今後の方向性に合わせた表現への変更

① 北陸新幹線の開業への対応

- ・新幹線アクセス路線の整備を始めとする新幹線駅からの利便性確保が必要
- ・市民生活だけでなく、ビジネス、観光へ波及する公共交通による利便性確保が必要
- ・開業効果を持続させる多様な方策の検討が必要

② 新庁舎建設や市街地の開発など、都市機能の集約化の進展と連動した交通網の形成

- ・新庁舎建設や市民病院の増改築、区画整理事業、住宅取得支援など、市街地開発の進展と都市機能の集約化に応じた公共交通網の整備が必要
- ・市内における、自然環境と共生する環境配慮型まちづくりなどとの連動が必要

③ 将来的な地域公共交通網の持続可能性確保

- ・路線の再編による効率的な運行方法の検討が必要
- ・人材の確保や設備更新、路線収支の安定化など、運行事業の持続可能性確保が必要
- ・公共交通を支える意思があることを市民が示している一方、満足のいく交通網を提供できていないことから、公共交通空白地域の解消や路線再編による利便性向上を通じて、より使いやすく持続可能性の高い公共交通網の形成が必要

④ 人口減少社会に対応した利用促進の取組み

- ・公共交通に関する積極的な情報提供やモビリティマネジメントなどの利用促進の取組が必要
- ・デマンド交通やコミュニティタクシー等において、利用者が固定化しつつある状況の改善が必要
- ・黒部駅、電鉄黒部駅の利用減少、利用の伸びが鈍化する路線があることから、鉄道も含めた市街地での公共交通利用促進が必要

⑤ 新たな技術、交通システムの検討

- ・路線運行のみで全ての公共交通ニーズに応えるのは困難である一方、デマンド運行等の柔軟な交通システムにおいても、利用方法での不満があることから、新たな交通システムの検討が必要
- ・環境やバリアフリーに配慮した先進的な車両の導入、IT を活用した新技術の導入検討が必要

⑥ 公共交通を利用していない、利用したことがない市民への対応

- ・アンケート結果からは、多くの市民が公共交通を利用していない、利用したことが無い実情が浮かび上がることから、一度体験するためのきっかけづくりや乗車体験、市民が無理なく出来る範囲で公共交通を使うための取組、意向調査が必要

黒部市地域公共交通網の大きな課題…

**中心市街地への都市機能の集約化に合わせた公共交通網の形成
公共交通にまずは一度乗って頂く、体験し身近に感じる機会づくり**

【既存計画】

4-4 計画の目標

目標指標 1 市内路線バス・コミュニティ交通の利用者数

現状値	目標値
36,613 人/年 (集計期間:H25/10~H26/9)	88,000 人/年 (集計期間:H30/10~H31/9)

●生地三日市循環線、池尻線、愛本コミュニティタクシー、デマンドタクシー及び、今後整備する市内路線バス、コミュニティ交通の利用者数の合計値

目標指標 2 市内鉄道の利用者数

現状値	目標値
2,631,285 人/年 (集計期間:H25/4~H26/3)	3,200,000 人/年 (集計期間:H30/4~H31/3)

●富山地方鉄道本線、あいの風とやま鉄道(旧 JR 北陸本線)、北陸新幹線の市内駅乗降客数の合計値

目標指標 3 公共交通利用圏域内 町内会人口率 (交通空白地域の解消)

現状値	目標値
76% (H27/3 時点)	100% (H32/3 時点)

●市内の各町内会内のうち、公共交通利用圏域に入っているエリアの人口割合を集計

目標指標 4 1年に1回以上公共交通を利用する市民の割合

現状値	目標値
61.0% (H26 年度アンケート)	80.0% (H31 年度アンケート)

●市民アンケートにより把握する、1年間に1回以上公共交通を利用する市民の割合

目標指標 5 市内公共交通への満足度

現状値	目標値
2.37 (H26 年度アンケート)	3.50 (H31 年度アンケート)

●市民アンケートにより把握する、公共交通全般に対する満足度の五段階評価 (満足=5、やや満足=4、普通=3、やや不満=2、不満=1 とした五段階評価法による平均値)

※目標指標 1、目標指標 2 については、まちづくりの進展や新幹線開業に伴う流動の変動幅が大きいことが想定されるため、利用状況を随時把握し、現時点での予測と将来の計画や実態との間で大幅な乖離が生じるなどした場合は、目標値を適正に見直すことも想定する。

【計画改訂版】

※赤字表示部分が改訂部分を示す。

4-4 計画の目標

目標指標 1 市内路線バス・コミュニティ交通の利用者数

現状値	目標値
36,613 人/年 (集計期間:H25/10~H26/9)	180,000 人/年 (集計期間:H30/10~H31/9)

●新幹線市街地線、新幹線生地線、生地循環線、石田三日市線、池尻線、南北循環線、愛本コミュニティタクシー及びデマンドタクシーの利用者数の合計値

目標指標 2 市内鉄道の利用者数

現状値	目標値
2,631,285 人/年 (集計期間:H25/4~H26/3)	3,393,000 人/年 (集計期間:H30/4~H31/3)

●富山地方鉄道本線、あいの風とやま鉄道(旧 JR 北陸本線)、北陸新幹線の市内駅乗降客数の合計値

目標指標 3 公共交通利用圏域内 町内会人口率 (交通空白地域の解消)

現状値	目標値
76% (H27/3 時点)	100% (H32/3 時点)

●市内の各町内会内のうち、公共交通利用圏域に入っているエリアの人口割合を集計

目標指標 4 1年に1回以上公共交通を利用する市民の割合

現状値	目標値
61.0% (H26 年度アンケート)	80.0% (H31 年度アンケート)

●市民アンケートにより把握する、1年間に1回以上公共交通を利用する市民の割合

目標指標 5 市内公共交通への満足度

現状値	目標値
2.37 (H26 年度アンケート)	3.50 (H31 年度アンケート)

●市民アンケートにより把握する、公共交通全般に対する満足度の五段階評価 (満足=5、やや満足=4、普通=3、やや不満=2、不満=1 とした五段階評価法による平均値)

※目標指標 1 及び目標指標 2 については、北陸新幹線の開業や新規路線の運行開始に伴い、利用実績値が当初計画の目標値を上回っている。また、北陸新幹線開業後の平成 28 年度実績値をベースに設定された、第 2 次黒部市総合振興計画及び黒部市立地適正化計画の数値目標との整合が取れなくなっているため、上方修正を行う。

【既存計画】

【計画改訂版】

※赤字表示部分が改訂部分を示す。

4-6 実施する事業

事業の体系	番号	事業名
新幹線開業効果を高める公共交通網の形成	1	新幹線市街地線の運行
	2	新幹線駅と生地地区を結ぶアクセス路線バスの運行
	3	新川地域観光周遊タクシー「にいタク」の運行
	4	宇奈月温泉及び新幹線駅と立山黒部アルペンルートを結ぶ乗合バス路線の運行
まちづくりと連動した地域公共交通網の形成	5	生地三日市循環線の運行と定期的な改善
	6	石田地区における通勤バス計画と運行
	7	村椿・大布施・荻生地区におけるデマンドタクシーの導入
	8	愛本コミュニティタクシーの運行改善
	9	田家・前沢地区におけるデマンドタクシーの運行
公共交通利用環境の整備	10	宇奈月温泉駅及び周辺地区の歩行環境整備
	11	バス待合環境の改善
	12	駅施設の修繕・改善
	13	環境配慮型車両、バリアフリー車両の導入
	14	車両のデザイン化促進
	15	パーク&ライド駐車場の整備
公共交通利用時の利便性向上	16	交通情報提供システムの導入と運用
	17	乗継ぎ利便性の確保
公共交通の利用促進	18	公共交通情報提供ホームページの運営
	19	企画切符の発行
	20	公共交通マップの作成
	21	モビリティマネジメントの実施
コンパクトなまちづくりの推進	22	住宅取得支援補助事業の推進
	23	都市機能集積の推進
公共交通に関する調査・計画・評価検証	24	新幹線の利用状況調査
	25	新たな交通システムの実証実験、導入可能性調査、計画検討
	26	公共交通の評価、検証
	27	市民意見の聴取、アンケート調査の実施

(各事業の詳細部分は省略)

4-6 実施する事業

事業の体系	番号	事業名
新幹線開業効果を高める公共交通網の形成	1	新幹線市街地線の運行
	2	新幹線生地線の運行
	3	新川地域観光周遊タクシー「にいタク」の運行
	4	アルペンライナー（宇奈月温泉立山室堂線）の運行
まちづくりと連動した地域公共交通網の形成	5	生地循環線の運行と定期的な改善
	6	【新規】南北循環線の計画と運行
	7	石田三日市線の計画と運行
	8	村椿・大布施・荻生地区でのデマンドタクシーの計画と運行
	9	愛本コミュニティタクシーの運行改善
	10	田家・前沢地区でのデマンドタクシーの運行
公共交通利用環境の整備	11	宇奈月温泉駅及び周辺地区の歩行環境整備
	12	バス待合環境の改善（モビリティハブの整備）
	13	駅施設の修繕・改善
	14	環境配慮型車両、バリアフリー車両の導入
	15	車両及びバス停のデザイン化促進
	16	パーク&ライド駐車場の整備
	17	【新規】無料公共自転車「ちょいのり黒部」の整備
公共交通利用時の利便性向上	18	交通情報提供システムの導入と運用
	19	乗継ぎ利便性の確保
公共交通の利用促進	20	公共交通情報提供ホームページの運営
	21	企画切符の発行
	22	公共交通マップの作成
	23	モビリティマネジメントの実施
コンパクトなまちづくりの推進	24	住宅取得支援補助事業の推進
	25	都市機能集積の推進
公共交通に関する調査・計画・評価検証	26	新幹線の利用状況調査
	27	【新規】池尻線とスクールバスの一体的な運行計画の検討
	28	ICTを活用した予約制相乗り型交通システムの実証実験、導入可能性調査、計画検討
	29	公共交通の評価、検証
	30	市民意見の聴取、アンケート調査の実施

※必要な事業名称の修正を行うとともに、現在までの情勢変化の中で、新たに取り組むこととした事業について新規事業計画として盛り込む。

(各事業の詳細部分は省略)

4-7 重点施策

(1) バス交通ネットワークの段階的な再編・整備

- ・北陸新幹線開業に合わせた新幹線市街地線の導入を皮切りに、新幹線生地線(仮称)の導入等、事業に位置付けたバス路線やコミュニティ交通について、段階的な再編・整備を実施する。
- ・「鉄道を軸とした公共交通網が支える都市構造」を目指し、市内外の移動と地域住民の日常生活交通を結節し、誰もが自由に移動できる公共交通網の形成を図る。

第一段階 【平成 26 年度末】

- ・北陸新幹線開業に合わせ、新幹線駅と黒部駅、市街地を結ぶ新幹線市街地線の整備を行う。



4-7 重点施策

(1) バス交通ネットワークの段階的な再編・最適化

- ・北陸新幹線開業に合わせた新幹線市街地線の導入を皮切りに、新幹線生地線(仮称)の導入等、事業に位置付けたバス路線やコミュニティ交通について、段階的な再編・整備を実施するとともに、**持続可能な運行形態の構築に向け、路線の最適化を行う。**
- ・「鉄道を軸とした公共交通網が支える都市構造」を目指し、市内外の移動と地域住民の日常生活交通を結節し、誰もが自由に移動できる公共交通網の形成を図る。

第一段階 【平成 26 年度末】

- ・北陸新幹線開業に合わせ、新幹線駅と黒部駅、市街地を結ぶ新幹線市街地線の整備を行う。

- ・新幹線市街地線の運行

第二段階 【平成 27 年度中】

- ・新庁舎建設等のまちづくりの進展を踏まえ、石田地区と市街地を結ぶ**バスの導入**、デマンド交通の新規導入を行うとともに、既存路線の見直しや運行充実を図る。

- ・石田三日市線の運行
- ・村椿・大布施地区、荻生地区におけるデマンドタクシーの運行
- ・生地循環線の運行ルート見直し

第三段階 【平成 28 年度以降】

- ・新幹線と生地地区を結ぶ路線の新設を行うとともに、時間帯によって異なるニーズに柔軟に対応できる、新たな交通システムの導入検討を図る。

- ・新幹線生地線の運行
- ・「次世代交通システム」実証実験の実施

第四段階 【平成 29 年度】

- ・企業と連携を図り、社員の通勤需要を取り込みながら、一般乗合バスとして持続可能な運行形態の構築を目指す。

- ・南北循環線の運行

※これまで実施した重点事業について整理するとともに、計画期間満了までの2か年度で実施する重点事業を新たに盛り込む。

